

No.4

シンギュラリティとは、人工知能つまり AI が人間の能力を超える転換点を意味する。技術的特異点と訳すこともある。

自律的に作動する機械により、人間の想像力がおよばないほどに優秀な知性が誕生するという仮説である。2045 年までにはシンギュラティを迎え、人間と AI の能力が逆転するとの予測がある。

ただ、人間の持つ感情や喜怒哀楽が AI に表現できるのか、疑問も残る。

調査では AI について「歌手の名前」(30 代男性)、「アイという名前のロボット」(30 代女性)との勘違いも。「何の略かよく分からない」(60 代女性)との声もあった。IT ライターの佐野さんは、サービスや技術に関わりがないと、なかなか意味までは分からないだろう、と話す。

No.5

フィンテックとは、金融(フィナンシャル)と技術(テクノロジー)を組み合わせた造語である。金融サービスと情報技術を結びつけたさまざまな革新的な動きを指す。近年のスマートフォンの普及とともに急速に広がり始め、家計簿アプリやクレジットカードの管理、SNS を使った支払いや送金などに用いられるなど、サービスも多様化している。

これまで金融サービスが十分普及していなかった途上国や新興国でも、スマートフォンを利用した金融サービスが急速に広がる動きが進んでいます

フィンテックという言葉は、日本経済新聞朝刊に、この 1 年間で 500 回以上登場した。それでも「会社の名前だと思っていた」(30 代男性)など、言葉としての認知度はまだ高くはないようだ。

No.6

ペアレンタルコントロールとは、親が子供の情報機器利用を制限、監視すること。

有害なサイトへのアクセス、コンテンツの購入制限や、利用時間の設定などができる。

似た言葉に「フィルタリング」があるが、こちらはネット上の閲覧制限を意味することが多い。

ペアレンタルコントロールはパソコンの機能制限やゲーム機の利用時間設定、メール送信の宛先制限など、より広い意味で使われる。

最近ではスマホやパソコン、ゲーム機などに初めから機能として付いていることが多い。「ペアで何かをコントロールすることだと勘違いしていた」(40 代女性)との声もあり、実際に機能制限を活用している人は多いものの、言葉としてはまだまだ浸透していないようだ。